

WINギャラップ・インターナショナル・アソシエーション国際世論調査

「アメリカ合衆国大統領選挙に関する世論調査」

45カ国グローバル調査

調査結果

株式会社 日本リサーチセンター

◆「アメリカ合衆国大統領選挙に関する世論調査」レポート

株式会社日本リサーチセンター（本社：東京都中央区、代表取締役社長 鈴木稲博）が加盟しているWIN/ギャラップ・インターナショナル・アソシエーションでは、今年7月から9月にかけて世界45カ国の人々を対象に「**アメリカ合衆国大統領選挙に関する世論調査**」を実施しました。

この度、その調査結果がリリースされましたので、日本の属性別調査結果を加えて、日本版レポートを発表いたします。ご覧いただければ幸いです。

◆WIN/ギャラップ・インターナショナル・アソシエーション

1947年にジョージ・ギャラップ氏とヨーロッパの仲間によって設立され、チューリッヒに本部があります。現在世界の70カ国以上でメンバーを持ち、100カ国以上の国々で世論調査や市場調査を実施しています。
※なお、米国調査会社Gallup, Inc.とは関係ございません。

◆日本リサーチセンター（NRC）

1960年に設立された民間の調査研究機関です。民間企業、官公庁からの受託調査・研究及び自主企画調査を国内外問わず実施しています。WIN/ギャラップ・インターナショナル・アソシエーションには日本代表として1968年に加盟しました。

1) アメリカ合衆国大統領選挙に投票するなら、世界全体と日本ではクリントン氏が優勢

- アメリカ合衆国大統領選挙に投票できるとしたら誰に投票するかを質問した結果は、アメリカでは、「ヒラリー・クリントン」が48%で、「ドナルド・トランプ」の41%を上回った。しかし差は6ポイント程度で、両者の支持は拮抗している。
- 「クリントン」支持は、世界全体（アメリカを除く世界各国の計）では59%、日本では60%と高い。

2) アメリカ合衆国大統領選挙が自国に与える影響は大きいとの回答が多数

- 世界全体も日本も、約7割がアメリカ合衆国大統領選挙は自国への影響が大きいと回答。

3) テロとの戦いに対するアメリカの資源投入について、アメリカ、世界全体、日本で意見に違い

- アメリカでは「増やすべき」と「現状維持」が同程度。世界全体では「増やすべき」が最も多く45%。
- 日本は「わからない」が46%で最も多く、次いで「現状維持」が2番目に多く「増やすべき」を上回る。

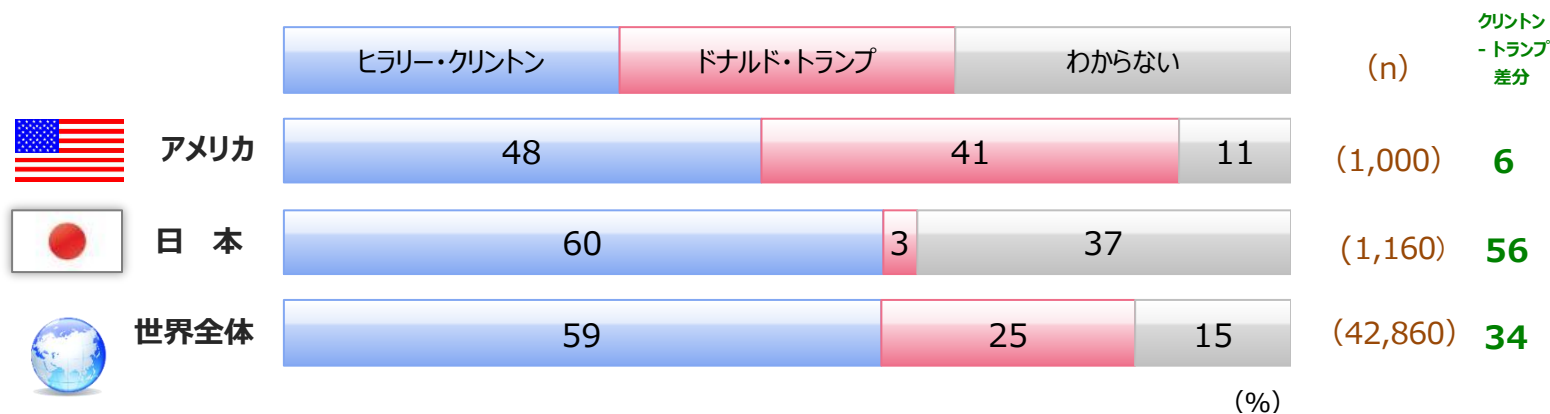
4) オバマ大統領がアメリカの国力を「強くした」か「弱くした」かは、アメリカ、世界全体、日本で評価に違い

- アメリカでは、オバマ大統領がアメリカの国力を「強くした」と「弱くした」が同程度で評価は拮抗。世界全体では「強くした」が47%だが、日本は「わからない」と「変化はない」が多い。

アメリカ合衆国大統領選挙に投票するなら、日本と世界全体では「ヒラリー・クリントン」が優勢

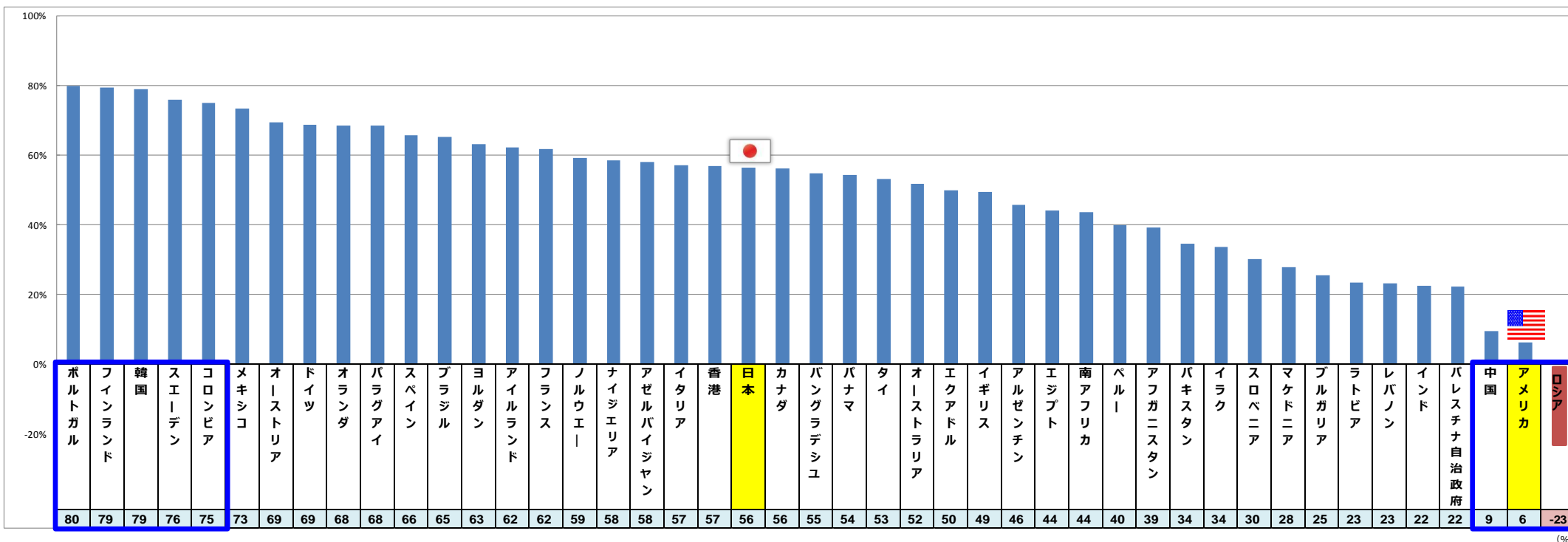
- アメリカ合衆国大統領選挙に投票できるとしたら誰に投票するかを質問したところ、アメリカでは「ヒラリー・クリントン」が48%で、「ドナルド・トランプ」の41%を上回った。しかし差は6ポイント程度で、両者の支持は拮抗している。
- 日本や世界全体（アメリカを除く世界各国の計）では、「ヒラリー・クリントン」支持が約6割と多数を占める。特に、日本では「ドナルド・トランプ」支持は3%と少なく、「ヒラリー・クリントン」が圧倒的に多い。

Q 「アメリカ合衆国大統領選挙」に投票するとしたら、誰に投票しますか。(単数回答)

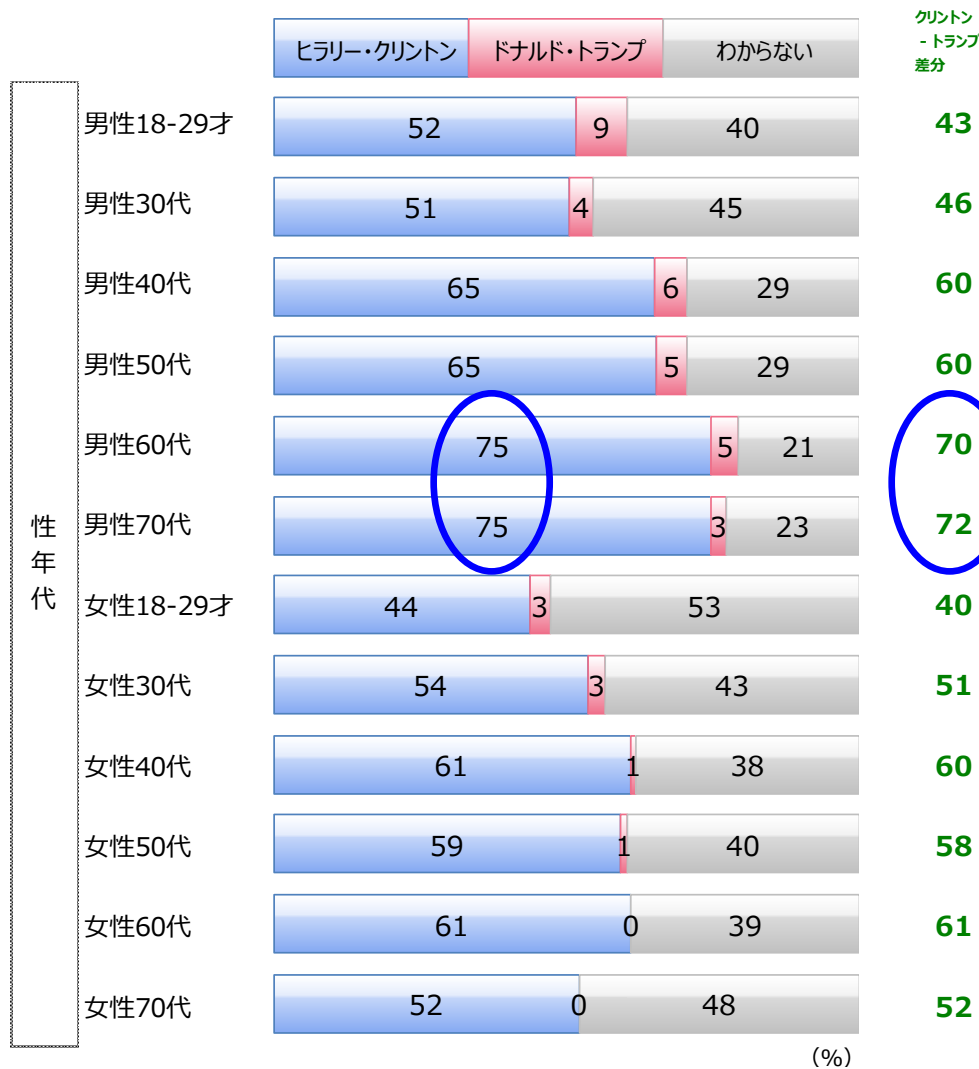
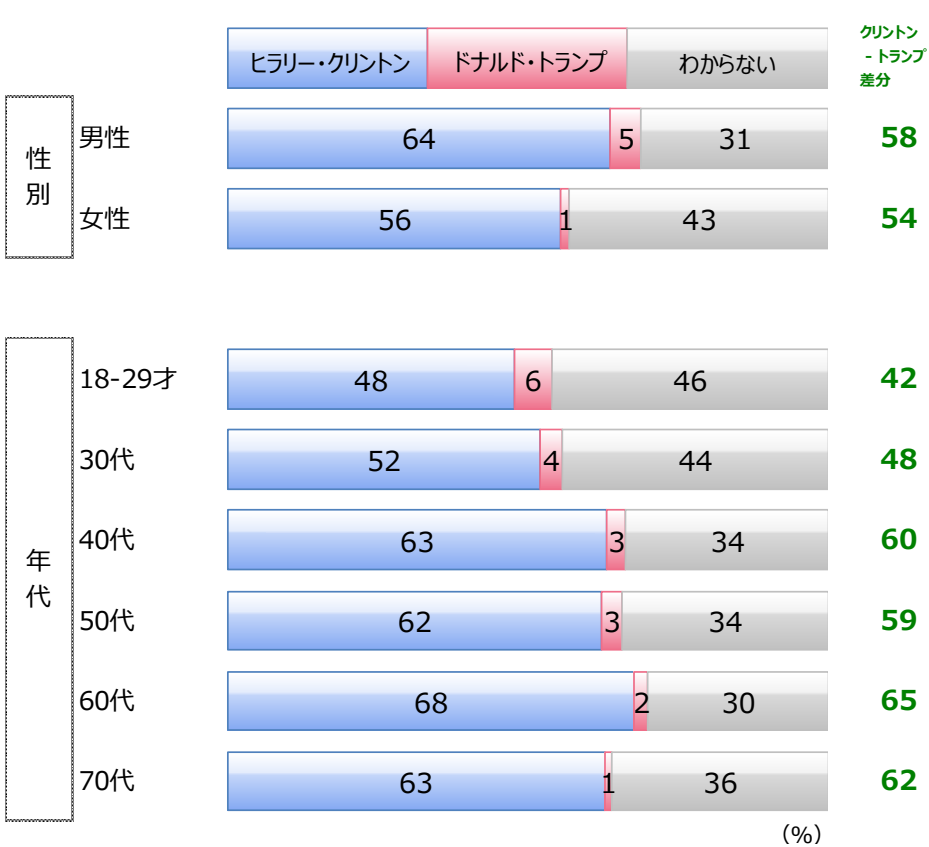


- アメリカ合衆国大統領選挙に投票できるとしたら誰に投票するかの質問で、「ヒラリー・クリントン」と「ドナルド・トランプ」の割合の差は、ポルトガル、フィンランド、韓国、スウェーデン、コロンビアが75%～80%と高い。日本は56%で、45か国中、中位に位置する。
- アメリカと中国では他の国々に比べてその差が小さく、ロシアでは逆に「ドナルド・トランプ」が優勢。

■「ヒラリー・クリントン」-「ドナルド・トランプ」の回答割合の差（差の大きい順に並べ替え）



● 日本の結果を男女×年代別にみると、男性の60代と70代が、他の性年代に比べて「ヒラリー・クリントン」の支持が高い。



日本も世界全体も約7割が自国への影響が大きいと回答

- 「アメリカ合衆国大統領選挙」が自国にどの程度影響を与えると思うかを聞いたところ、「影響は大きい」と答えた割合は、日本も世界全体も約7割と多数を占める。

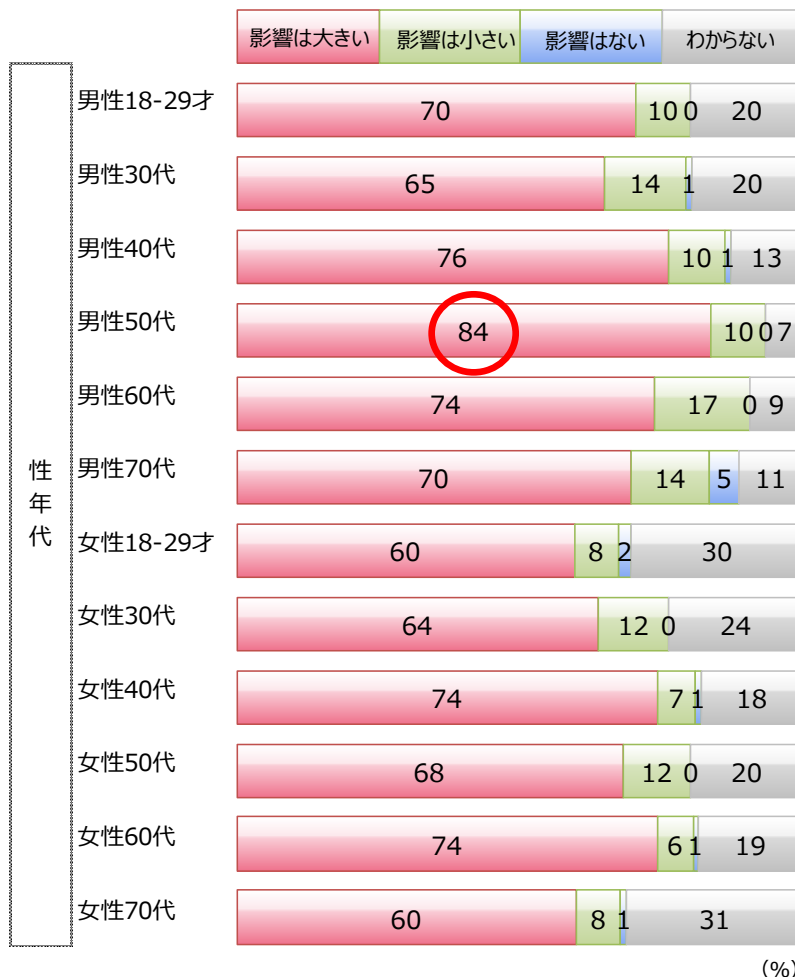
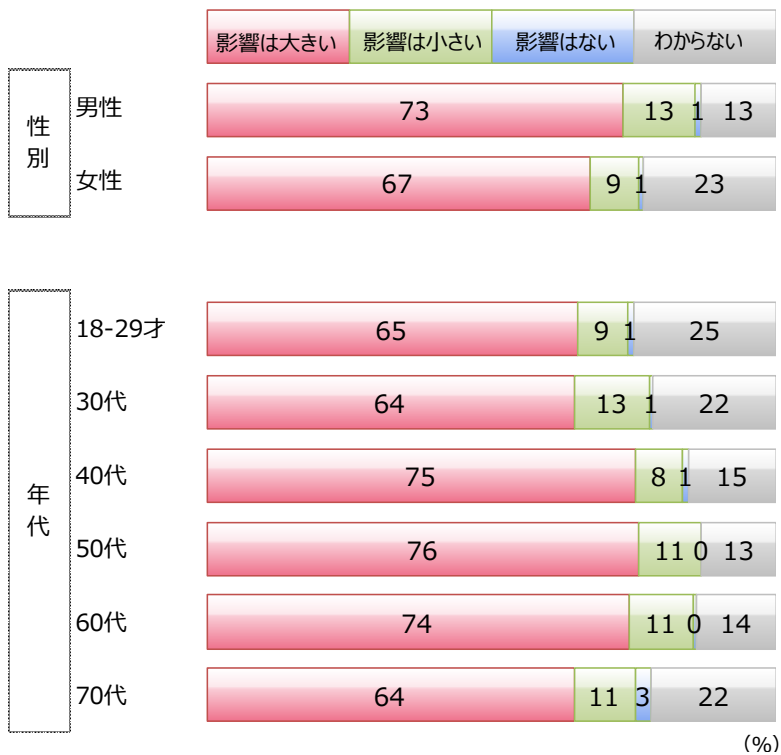
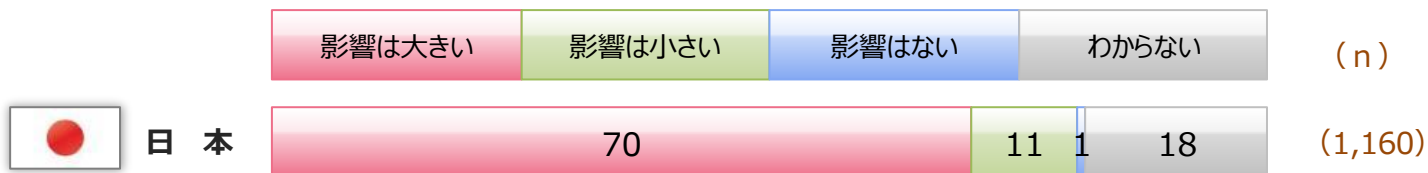
Q 「アメリカ合衆国大統領選挙」は、自国にどの程度影響を与えますか。経済発展や貿易、安全保障など、様々な局面からお考えください。(単数回答)



*「影響は非常に大きい」と「影響は大きい」の計 (%)

(注)アメリカは本設問は非聴取

●日本の結果を男女×年代別にみると、「影響は大きい」が最も多いのは、男性の50代（84%）である。

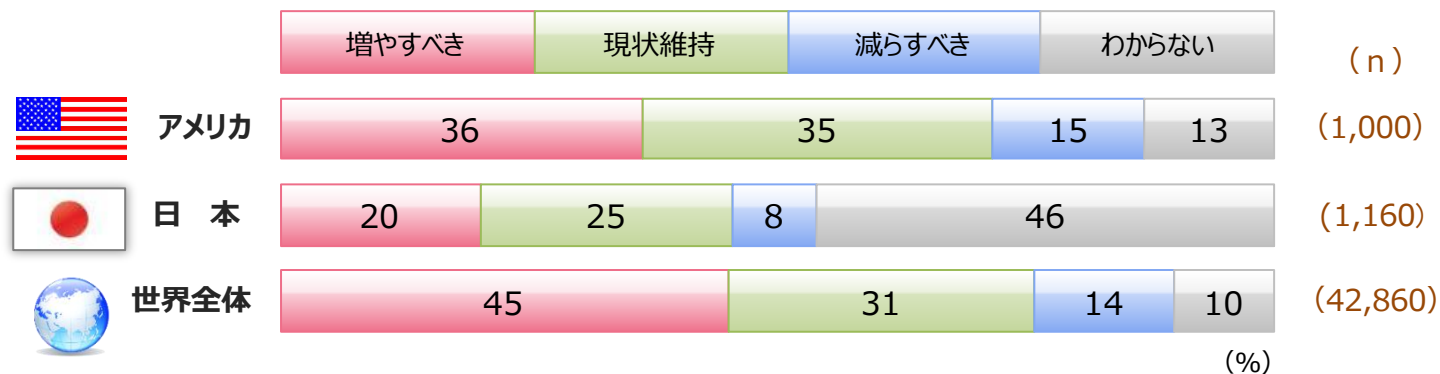


アメリカでは「増やすべき」と「現状維持」が同程度。世界全体では「増やすべき」が最も多く45%

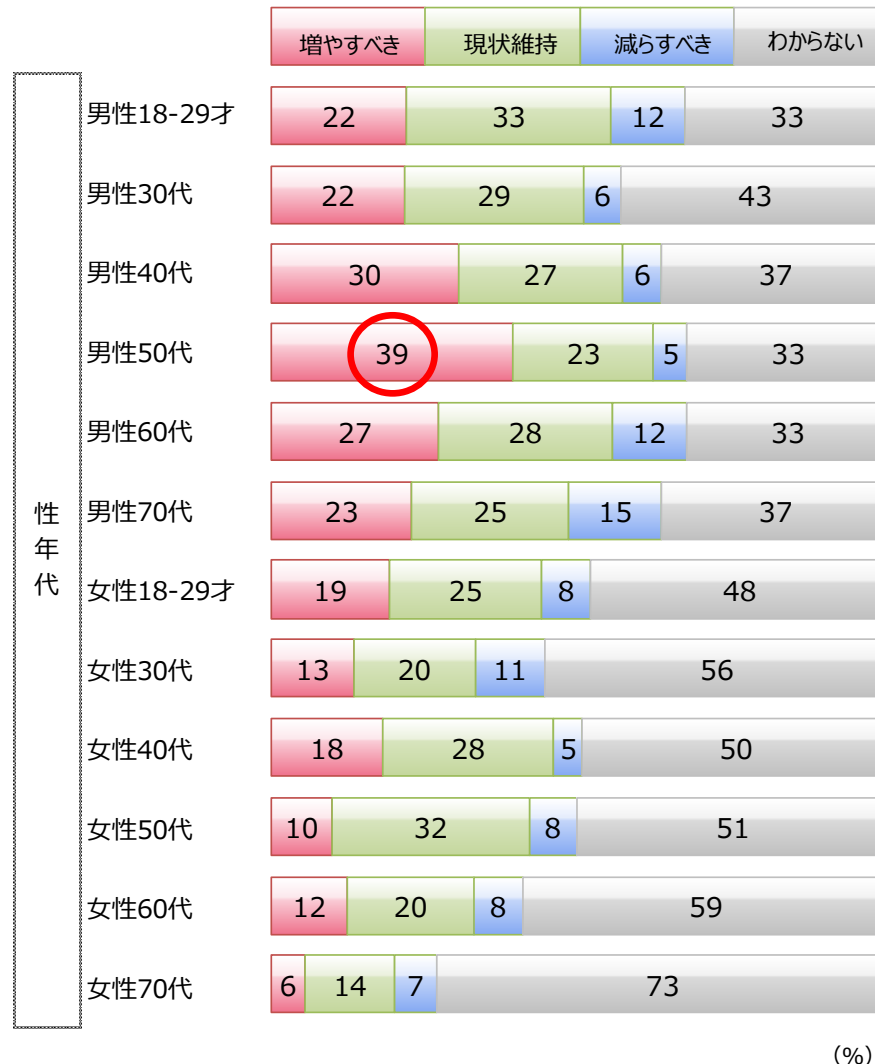
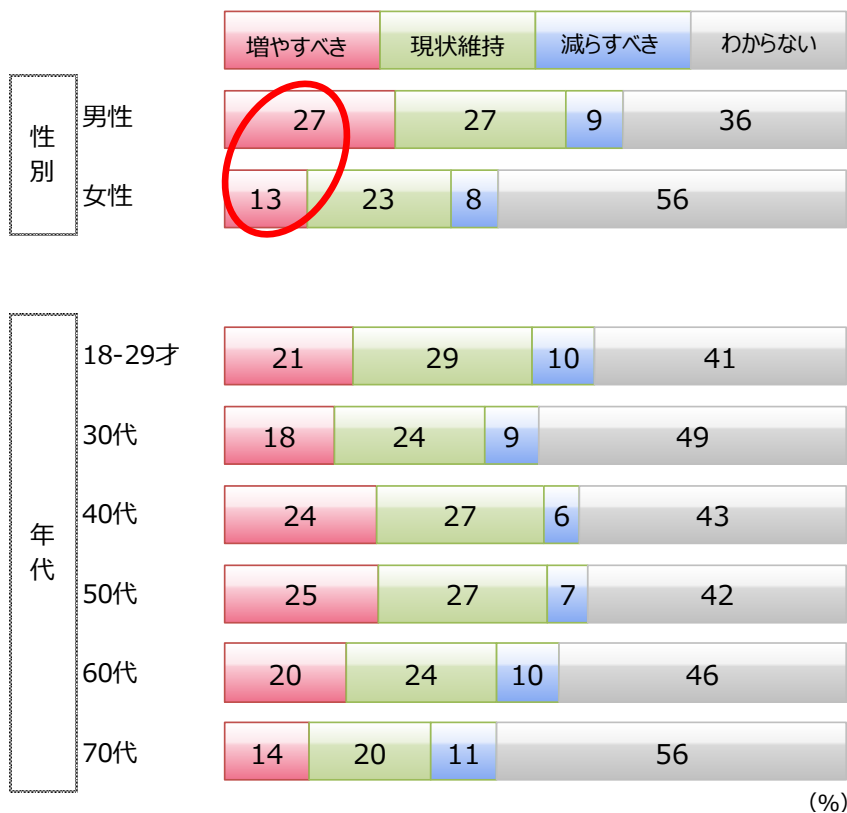
日本は「わからない」が46%で最も多く、次いで「現状維持」が2番目に多く「増やすべき」を上回る

- 「テロとの戦い（対ISISなど）に対するアメリカの資源投入について、アメリカ合衆国大統領に進言できるとしたらどのようにアドバイスするかを聞いたところ、アメリカでは、「増やすべき」（36%）と「現状維持」（35%）が拮抗している。
- 日本では、「わからない」が46%で最も多く、「現状維持」は25%と「増やすべき」（20%）をやや上回る。
- 世界全体では、「増やすべき」が45%と最も多い。

Q もし、あなたがアメリカ合衆国大統領に進言できるとしたら、「テロとの戦い（対ISISなど）」に対して、アメリカが資源を投入することを、どのようにアドバイスしますか。（単数回答）



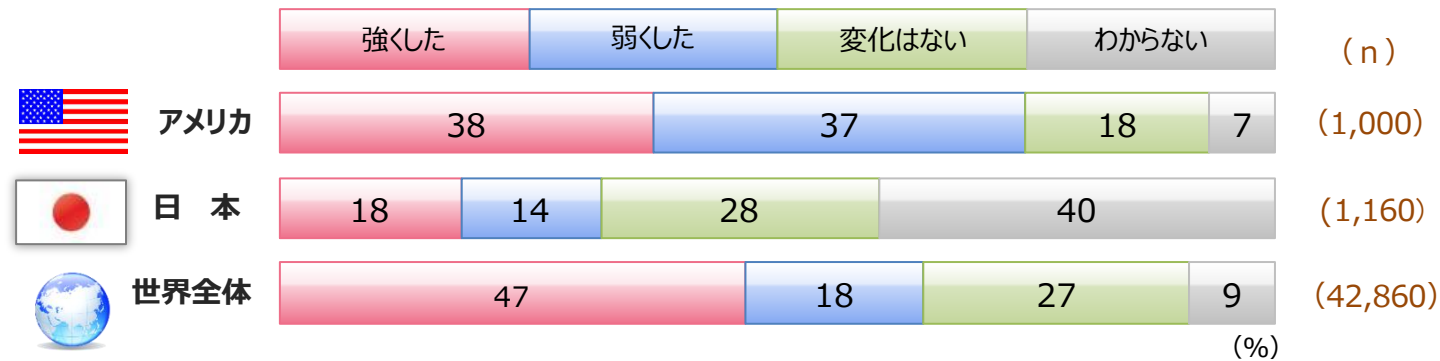
- 日本の結果を男女別にみると、「増やすべき」は女性よりも男性が多い（女性は「わからない」が56%と多い）。
- 男女×年代別にみると、「増やすべき」が最も多いのは男性50代（39%）である。



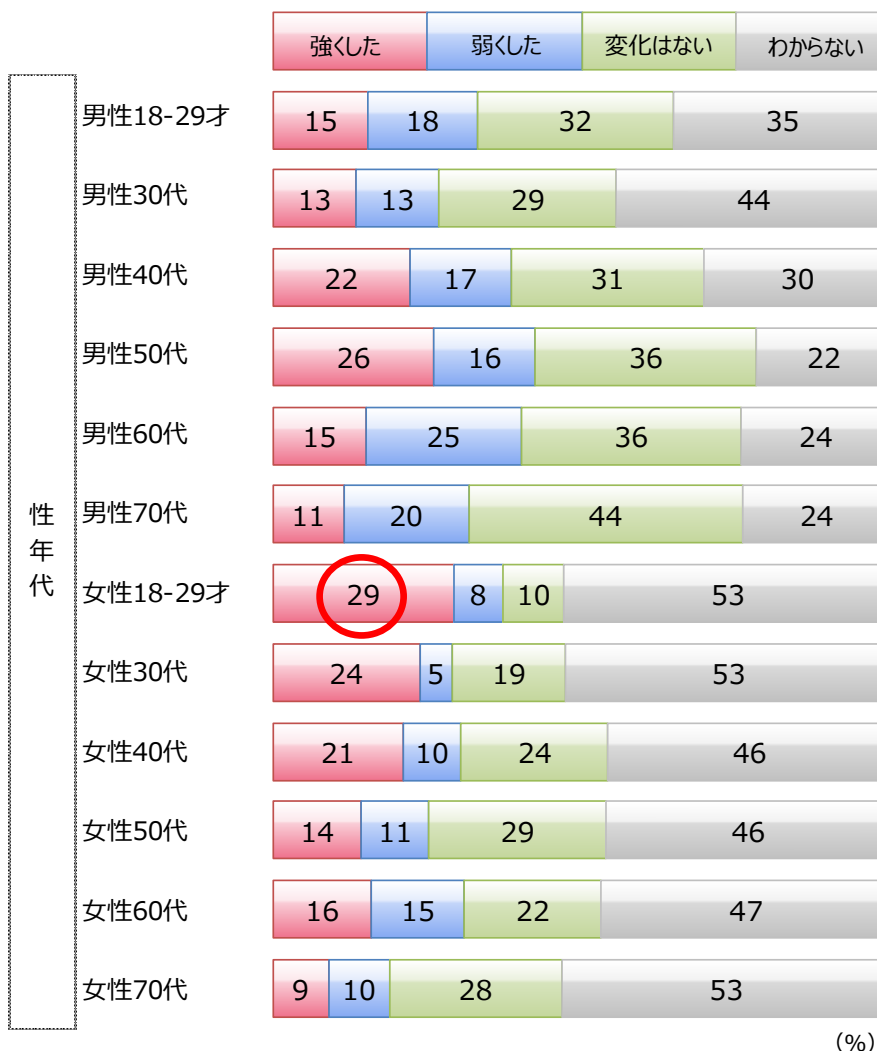
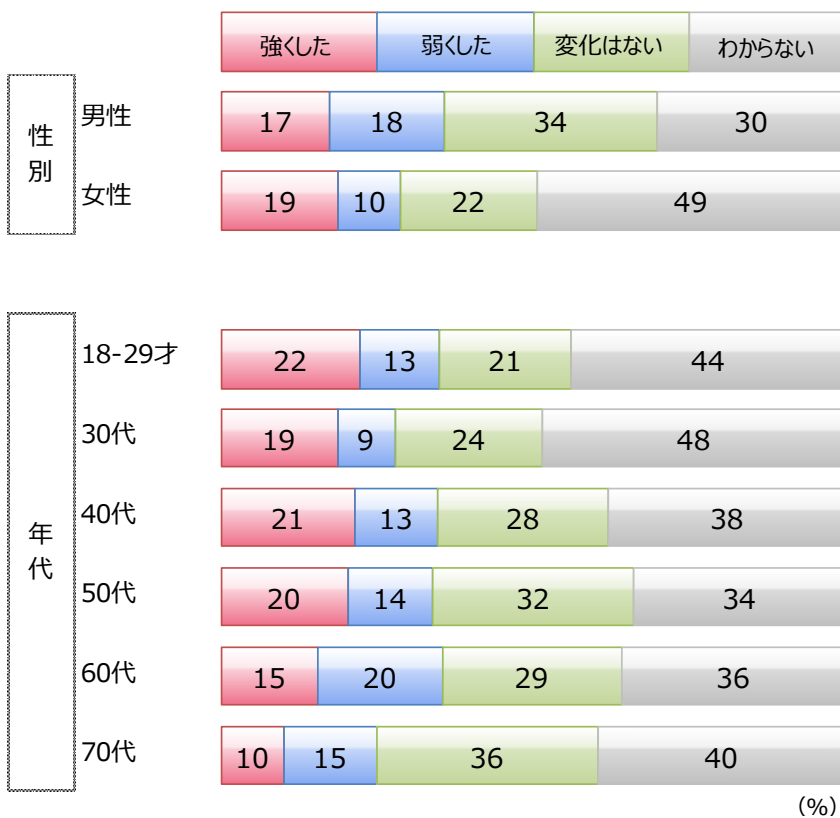
アメリカでは「強くした」と「弱くした」が4割弱で拮抗。世界全体では「強くした」が47%と多いが、日本は「わからない」と「変化はない」が多数

- オバマ大統領が在任中の8年間で、世界におけるアメリカの国力を前よりも強くしたかどうかを聞いたところ、アメリカでは、「強くした」(38%)と「弱くした」(37%)が同程度で評価は拮抗している。
- 世界全体では「強くした」が47%で最も多いが、日本では「わからない」(40%)と「変化はない」(28%)が多い。

Q オバマ大統領は在任中の8年間で、世界におけるアメリカの国力を前よりも強くしたでしょうか、弱くしたでしょうか、それとも変化はなかったでしょうか。あなたのお考えをお知らせください。(単数回答)



● 日本の結果を男女×年代別にみると、女性の18-29才では「強くした」が最も多く、「変化はない」を上回る。



● 45カ国の内訳と調査手法及び調査サンプルサイズは、以下の通り。

地域	国	手法	サンプルサイズ
アジア・太平洋	日本	訪問調査	1,200
	オーストラリア	Online	1,000
	中国	Online	1,150
	香港	Online	500
	韓国	CATI	1,007
	タイ	CATI	600
	南アジア	アフガニスタン	Face to Face
バングラデシュ		CATI	1,500
インド		CATI	1,211
パキスタン		Face to Face	1,000
北米		カナダ	Online
	米国	Online	1,000
中南米	アルゼンチン	Face to Face	1,002
	ブラジル	Online	1,000
	コロンビア	CATI	1,000
	エクアドル	Face to Face	772
	メキシコ	Face to Face	800
	パナマ	Face to Face	1,224
	パラグアイ	F2F/CATI	1,391
	ペルー	Face to Face	1,200
	西アジア	イラク	Face to Face
ヨルダン		Face to Face	800
レバノン		CATI	1,000
パレスチナ自治政府		Face to Face	1,026

地域	国	手法	サンプルサイズ	
西欧	オーストリア	Online	1,000	
	ブルガリア	Face to Face	813	
	フィンランド	Online	544	
	フランス	Online	1,000	
	ドイツ	Online	1,000	
	アイルランド	Online	1,040	
	イタリア	Online	1,009	
	ラトビア	Online	1,004	
	オランダ	Online	1,014	
	ノルウェー	F2F/CATI/Online	1,050	
	ポルトガル	Online	516	
	スロベニア	Online	1,000	
	スペイン	CATI	500	
	スウェーデン	Online	1,001	
	イギリス	Online	1,000	
	東欧	アゼルバイジャン	CATI	400
		マケドニア	Face to Face	1,208
ロシア		Online	1,643	
アフリカ	エジプト	CATI	500	
	ナイジェリア	Face to Face	800	
	南アフリカ	Online	1,001	
45カ国合計			44,194	

● 日本の属性別調査サンプルサイズは、以下の通り。

日本	属性	サンプルサイズ
性別	男性	575
	女性	585
年代別	18-29才	180
	30代	194
	40代	214
	50代	183
	60代	220
	70代	169
性年代別	男性18-29才	91
	男性30代	97
	男性40代	109
	男性50代	92
	男性60代	107
	男性70代	79
	女性18-29才	89
	女性30代	97
	女性40代	105
	女性50代	91
女性60代	113	
女性70代	90	

(注1) 各国および世界全体の比率 (%) は、各国の人口に比例した重みを付けて集計を行っている (ウエイト集計) だが、日本の性別・年代別比率 (%) は、ウエイト集計はしていない

(注2) 本レポートでは、18歳以上の集計結果を掲載している

《 引用・転載時のクレジット表記のお願い 》

本リリースの引用・転載の際は、下記連絡先にメールにて掲載のご連絡をお願い致します。

連絡先：日本リサーチセンター広報室

WIN/GIAアメリカ合衆国大統領選挙に関する世論調査 担当

メール：information@nrc.co.jp

TEL: 03-6667-3139(WIN/GIA担当 下瀬川・道広)

本リリースの引用・掲載の際は、必ずクレジットを明記してください。

調査結果のグラフ・表をご利用の場合は、データ部分に当社クレジットを掲載してください。